



前線からのプレスでボールを奪い、高い位置から攻撃に切り替えることが出来た。写真は中嶋



▲この日はドリブルでゴールへ果敢にアタックする場面が見られた鈴木亮



▲後半、不用意なファールで退場してしまった菊地だが、退場するまでは筑波大の攻撃の起点となる平山を封じた



◀後半、筑波大の攻勢にも太(中央)のナイスセーブなどで失点を防いだ

キャプテン 祐輔の為に...



インカレ直前の練習時に足首を骨折してしまった鈴木祐輔主将。90分間ゴールを死守した太は、「決勝まではインターバルがあり祐輔の復帰の可能性があると思ったので祐輔の為に」と語るように、この日のイレブンは筑波大に対するリベンジ以上に「祐輔を国立に連れて行く!」という気持ちが強く感じられた。その鈴木祐は年が明け、すでにチーム練習にも合流。「怪我は治りました。後は監督に使ってもらえるかどうかですね」と決勝出場への意気込んだ。

12月26日 13:20 西が丘サッカー場	
駒大2(2-0)0筑波大 (関東第3) (関東第1)	
得点者(アシスト)	
[駒] 4分: 中後雅喜 1	
[駒] 34分: 中後雅喜 2=PK	
KOMAZAWA	TSUKUBA
GK⑩太 洋一(4)	GK①来栖由基(3)
DF④小林 亮(4)	DF④石井雄真(2)
DF③大澤陽介(4)	DF⑤秋葉陽一(3)
DF⑬廣井友信(2)	DF⑥植松弘樹(4)
DF⑬筑城和人(2)	DF⑩阿部翔平(3)
MF⑫菊地光将(1)	MF⑧藤本淳吾(3)
MF⑧中嶋祐太(4)	MF⑨秋田政輝(4)
MF⑦鈴木亮平(3)	(45分)②三澤純一(1)
(81分)⑨塚本泰史(1)	MF⑩兵働昭弘(4)
MF⑥中後雅喜(4)	MF⑫今田 傑(1)
FW⑨赤嶺真吾(3)	(56分)③高山純一(2)
FW⑪原 一樹(2)	(66分)⑭中野洋司(3)
(88分)⑮巻 佑樹(2)	FW⑦鈴木達也(4)
	FW⑩平山相太(1)
S U B	S U B
GK①牧野利昭(3)	GK⑩山田慎太郎(2)
DF②桑原 靖(3)	DF⑮高向隼人(4)
MF⑯宮崎大志郎(3)	FW⑯佐々木惇(2)
MF⑰関 光博(4)	FW⑱富岡英聖(2)
MF⑱小野里銀児(1)	
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	木山隆之
警告(C)/退場(S)	
[駒] 19分: 小林亮(C) 29分: 菊地光将(C)	
55分: 菊地光将(C) 57分: 菊地光将(S)	
[筑] 33分: 石井雄真(C), 44分: 植松弘樹(C)	
51分: 兵働昭弘(C), 53分: 石井雄真(C)	
53分: 石井雄真(S), 57分: 高山純一(C)	
[シュート]10:13[GK]13:16[CK]5:7[PK]1:0[直接FK]27:22	
[間接FK]3:1[OS]3:1[主審]扇谷健司[観衆]約2000人	
※上記データは全て左側の数字が駒澤	

MOM 大澤陽介

終了間際のピンチにもゴール前での身体を張ったクリアやなど、インカレでここまで失点「1」と好調な守備陣の中心として、駒大決勝進出の原動となった



打ち合いの予感!?~インカレ決勝~

この試合の最大の見所は何といても両チームの攻撃力。今大会6試合18得点の攻撃陣を要する駒大は関東でもナンバー1の攻撃力を誇る。一方、立命大はここまで13得点を誇りこちらも関西ナンバー1の攻撃的チーム。この両者がどれだけその攻撃を防ぎ、自分たちの持ち味を出せるか意地と意地時の戦いとなりそう。スリリングな試合展開となることは必至である。

駒大はJ内定の中後雅喜、小林亮の4年生の2人を中心に6試合16得点をあげた攻撃陣のFW赤嶺真吾、原一樹が立命館大ゴールに襲い掛かる。

準々決勝、準決勝とビックサプライズを提供し続けてきた立命大は決勝の舞台まで上り詰めた。チームの中心はFW関雅至(4年)。得点だけでなくチャンスメイクも出来るまさにチームのキープレイヤー。ディフェンスラインはここまで8失点と駒大の1失点に比べやや不安定。空中戦に強い阪田章裕(2年)などがいるがこの守備陣がどれだけ駒大の攻撃を耐えられるかそこに勝敗の行方は左右されそうだ。

